

## 目 次

はじめに

<b>1 章</b>	<b>科捜研成立と存在意義</b>	001
<b>2 章</b>	<b>科捜研の所在地</b>	004
1	全国の科捜研	004
2	警察組織の中の位置	005
<b>3 章</b>	<b>科捜研の立場</b>	007
1	鑑定とは何か	007
2	捜査（検証）と鑑定	008
3	鑑識と科捜研の関係 指紋鑑定／足こん跡鑑定／写真係の業務／機動鑑識隊の業務／機動鑑識 隊警察犬係／裁判所への証人出廷	009
4	鑑定と研究 警察内部での研究に対する考え方／研究費／法科学研修所の研究科／個 人評価／科捜研と科警研（科学警察研究所）の関係	020
<b>4 章</b>	<b>科捜研の業務</b>	026
1	人事構成	026
2	法 医 科 DNA型鑑定／顔画像鑑定	028
3	化 学 科 薬毒物鑑定／工業製品鑑定／自然由来物鑑定	046
4	物理科（工学科） 火災鑑定／銃器弾丸鑑定／交通事故解析／画像解析	094

5	文書科	103
	筆跡鑑定／不明文字鑑定／印章鑑定	
6	心理科	106
	歴史／証拠能力／ポリグラフ検査の実際	
<b>5</b>	<b>鑑定資料の管理</b>	<b>113</b>
1	鑑識資料の採取から鑑定、返却までの流れ	113
2	Chain of Custody（略称：CoC，管理の連鎖）	116
3	返却資料の管理	117
<b>6</b>	<b>鑑定の品質</b>	<b>120</b>
1	鑑定法の統一	120
2	鑑定職員の採用試験・人事異動	122
3	鑑定倫理	124
4	科捜研の予算	126
5	科捜研施設の品質	129
6	アメリカの状況	130
	FBI研究所／米国科学アカデミー（NAS）による法科学への勧告	
<b>7</b>	<b>科捜研の中立性・信頼性を保証するために</b>	<b>138</b>
1	科捜研の中立性に関する課題	138
2	科捜研の信頼性に関する課題	139
3	組織改革の必要性	141
	中立性の保証／責任問題／鑑定責任と捜査責任の分離	

あとがき

別表

事項索引